

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	2
5 課題別委員会の開催とその議題	4
6 サイエンスカフェの開催	4
7 総合科学技術・イノベーション会議報告	4
8 慶弔	4
9 インパクトレポート	5

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
10 月 25 日 (金)	東北地区会議主催学術講演会「加速器科学が未来を拓くー医療・ものづくり・生命科学への応用ー」(岩手大学)	大西会長
10 月 31 日 (金)	オランダ王国国王王妃両陛下主催公式訪問記念コンサートおよびレセプション～(ホテルオークラ東京)	大西会長
10 月 31 日 (金)	中部地区会議学術講演会「環境先進大学からの情報発信」(三重大学)	井野瀬副会長
11 月 2 日 (日)	世界結晶年記念講演会(東京大学伊藤謝恩ホール)	大西会長
11 月 3 日 (月)	九州・沖縄地区会議主催学術講演会「いのちの水と生きる～熊本から世界へ～」(ANA クラウンプラザホテル熊本)	大西会長
11 月 4 日 (火) ～8 日 (土)	World Science Forum Steering Committee Meeting、IAP 執行委員会 (パリ)	花木副会長
11 月 6 日 (木)	園遊会(赤坂御苑)	大西会長
11 月 12 日 (水) ～13 日 (木)	KAST 主催 ソウル科学フォーラム IASSF (城南・韓国)	大西会長
11 月 14 日 (金) ～15 日 (土)	国連大学ボードミーティング(国連大学)	大西会長
11 月 14 日 (金)	北海道地区会議主催学術講演会「高齢化社会の食と医療 ～心身の健康のために～」(北海道大学)	向井副会長
11 月 20 日 (木)	GSF Carthage Smith 事務局長表敬	大西会長、花木副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第三部拡大役員会 (第1回) (11月21日)

①分野別委員会等各種委員会の確認 ②第22期からの申し送り事項について

- ③理学・工学系学協会連絡協議会（幹事会、全体会議）について
- ④第三部発出提言等の査読について ⑤平成 27 年度夏季部会について
- ⑥第 23 期の活動について ⑦その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

（１）科学研究における健全性の向上に関する検討委員会 研究健全性問題検討分科会（第 5 回）（1 1 月 1 4 日）

- ①文科省からの審議依頼に対する回答案について ②その他

（２）学術の観点から科学技術基本計画のあり方を考える委員会（第 1 回）（1 1 月 1 7 日）

- ①委員長ほか役員の選出等 ②委員会設置趣旨の説明
- ③参考人からの報告
 - （i）科学技術基本計画の位置づけ、科学技術基本計画を取り巻く動向等
 - （ii）第 5 回科学技術基本計画に向けた考え方
- ④意見交換 ⑤その他

（３）東日本大震災復興支援委員会（第 1 回）（1 1 月 2 1 日）

- ①役員の選出 ②特任連携会員の推薦について ③その他

3 機能別委員会の開催とその議題

（１）科学と社会委員会 課題別審議検討分科会（第 1 回）（1 0 月 2 3 日）

- ①役員について
- ②高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会の設置について

（２）科学者委員会（第 1 回）（1 1 月 1 9 日）

- ①科学者委員会の今後の運営について ②その他

（３）国際委員会（第 1 回）（1 1 月 2 1 日）

- ①役員の指名と同意 ②日本学術会議の国際活動について
- ③今後の国際関係業務について
- ④国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について ⑤その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 政治学委員会行政学・地方自治分科会 (第1回) (11月1日)

- ①顔合わせ、及び役員の選出
- ②会員、連携会員の分科会内での役員分担について
- ③今後の作業スケジュール ④今後の分科会開催予定、その他

(2) 経営学委員会 経営学大学院教育のあり方検討分科会 (第1回) (11月7日)

- ①分科会委員長の選任、副委員長、幹事の指名
- ②報告「社会科学系大学院修士課程学生に対する評価と教育」
報告「中央大学の多摩キャンパスにおける経営学関連の大学院教育 ― 3 研究科を中心に―」
- ③質疑及びフリーディスカッション ④次回の予定

第二部担当

(1) 健康・生活科学委員会 (第2回) (11月20日)

- ①第1回健康・生活科学委員会議事録(案)の確認 ②新委員の紹介
- ③各分科会世話人からの報告 ④今後の活動計画 ⑤その他

第三部担当

(1) 情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会 (第1回) (11月7日)

- ①分科会役員の互選 ②第23期の分科会の活動方針 ③その他

(2) 地球惑星科学委員会 IUGG分科会 (第1回) (11月10日)

- ①委員長・幹事の選出 ②オブザーバーの承認
- ③22期からの引継ぎと23期活動方針について
- ④学術会議代表派遣の申請とIUGG総会信任状について
- ⑤IUGGビューロー会議の報告
- ⑥IUGG Yearbook 2015について
- ⑦IASPEI総会(2017)の招聘について
- ⑧その他

(3) 総合工学委員会 ICO分科会 (第1回) (11月13日)

- ①分科会構成の確認 ②分科会委員長の互選および役員の指名
- ③22期分科会の議事要旨の確認 ④23期の活動方針について
- ⑤国際光年について ⑥IC02017について ⑦その他

5 課題別委員会の開催とその議題

なし

6 サイエンスカフェの開催

日時：10月20日（月）15：40～17：00

場所：淑徳巣鴨中学・高校

テーマ：「腸は超やばい！」

ゲスト：清水 誠（日本学術会議会員、東京農業大学応用生物科学部教授、東京大学名誉教授）

コーディネーター：宮川 智香（特定非営利活動法人 WEBREIGO 理事長）

7 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合

10月30日	欠席
11月 6日	欠席
11月13日	欠席
11月20日	出席

8 慶弔

・慶事

平成26年文化勲章

國武 豊喜（元会員（第19期））

平成26年文化功労者

斎藤 修（元連携会員（第20-21期））

佐藤 勝彦（連携会員（第22-23期）、元会員（第20-21期））

田中 啓二（会員（第22-23期）、元連携会員（第20期））

山本 明夫（元会員（第17-18期））

平成26年秋の叙勲受章者

【瑞宝重光章】

竹内 啓（元会員(第17期)）
西田 篤弘（連携会員（第20-21期））
宮村 達男（連携会員（第20-21, 22-23期））

【瑞宝中綬章】

中西 八郎（元連携会員(第20-21期)）

平成26年秋の褒章受章者

【紫綬褒章】

西村いくこ（会員（第23-24期）、元連携会員(第20, 21-22期)）
野田 進（連携会員(第20, 21-22, 23-24期)）

・ご逝去

野本 明男（のもと あきお）68歳 11月13日
連携会員（第22-23期）、元会員（第20-21期） 微生物化学研究会
微生物化学研究所長、東京大学名誉教授

9 インパクト・レポート

提言「臨床研究にかかる利益相反（COI）マネジメントの意義と
透明性確保について」インパクト・レポート

1. 提言内容

- ・産学連携活動においては、国民の健康、福祉の向上に向けた医学研究を実施する社会的責務と産学連携活動に伴って生ずる研究者個人の利害とが衝突する、いわゆる利益相反状態が不可避免的に発生する。これに対して、当該の機関・団体・組織は、社会と患者からの信頼を確保し、損なわないために、自らCOI指針を策定し、透明性確保を基本にしながら適切なCOI状態のマネジメントを積極的に行うべきである。
- ・臨床研究の実施においては、医学的妥当性、科学性、倫理性、ならびに個人情報保護を確保しつつ、さまざまなバイアスを排除するように努めなければならない。治験では、ICH-GCP（International Conference of Harmonization-Good Clinical Practice）を遵守し、モニタリング、監査等によってデータの信頼性保証がなされているが、研究者が行う臨床試験においても、各研究機関においてデータの信頼性を保証できる体制（臨床研究支援センターなど）を早急に整備

すべきである。ただし、臨床研究支援センターの設置には多額の経費を要するため、人員、設備に関しては格別の対応が必要である。

- ・研究者は、臨床研究の実施やその成果発表に際して、患者との信頼関係を維持し、関係する企業との利害関係に関する透明性を確保するために、当該研究にかかわる経済的利害関係を適正に開示し、研究費の由来を明らかにしなければならない。
- ・研究者主導臨床試験は、原則として奨学寄附金ではなく、委託研究費、共同研究費などの形で受け入れなければならない。
- ・研究者は口頭、誌面のいかなる発表においても、利益相反指針を遵守し、バイアスに関する懸念を抱かせないように科学性、中立性に基づいて研究成果を報告しなければならない。
- ・研究者は、研究費の受け入れのみならず、当該企業からの研究者の受け入れを含む労務の提供、研究設備の使用、原稿執筆料などについても、これらを正確に開示し、透明性を確保すべきである。

2. 提言の年月日

平成 25 年 12 月 20 日

3. 社会的インパクト

(1) 政策

厚生労働省では「臨床研究に係る制度の在り方に関する検討会」が、文部科学省では「疫学研究に関する倫理指針及び臨床研究に関する倫理指針の見直しに係る合同会議」が進められている。

(2) 学協会・研究機関・市民社会等の反応

本提言の作成は日本学術会議臨床医学委員会臨床研究分科会において平成 23 年 12 月 7 日から開始されたが、この間、平成 24 年 4 月 11 日にランセット誌においてバルサルタン臨床試験の問題点が指摘をされ、社会的にも一層の注目を浴びるに至った。これを受けて、平成 24 年 11 月 22 日には第 3 回日本医学会分科会利益相反会議「医学研究における産学連携の透明化と COI マネージメント」というシンポジウムが開催された。さらに、平成 24 年 12 月末からバルサルタン臨床試験関連の欧米誌からの論文撤回が始まったが、これらの論文では利益相反の開示とマネージメントが十分になされていなかったことから、社会の批判が強まった。このような経緯の中で、平成 25 年 7 月 23 日には日本学術会議会長談話「科学研究における不正行為の防止と利益相反への適切な対処について」が発出され、次いで平成 25 年 12 月 20 日に本提言が発出された。本提言は、平成 26 年 2 月に改定された日本医学会「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン」に引用されている他、日本血液学会などの各種医学系学会、岡山大学などの大学のホームページで引用をされている。また、本提言では、研究者主導臨床試験へ

の対応策については必ずしも十分には言及できなかったが、平成 26 年 3 月 27 日日本学術会議科学研究における健全性の向上に関する検討委員会臨床試験制度検討分科会から提言「我が国の研究者主導臨床試験に係る問題点と今後の対応策」が発出され、これを補う形となった。

4. メディア

・朝日新聞デジタル（平成 25 年 12 月 21 日）

5. 考察と自己点検

本提言の発出により、我が国の研究者が産学連携にかかる臨床研究の遂行において果たすべき責務と役割を明らかにできた。また、本提言策定中にバルサルタン臨床研究事案が起こり、我が国の臨床研究者の研究倫理の欠如及び COI マネージメントの立ち遅れが明らかとなったが、その意味において当提言の発出はタイムリーであった。

インパクト・レポート作成責任者
臨床医学委員会臨床研究分科会
分科会長 宮坂信之